



沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

1. 校長より	2	11. 3年生クラスの様子・活動紹介	14
2. 副校長の紹介	3-4	12. 学生会より	15
3. 1年担任からの挨拶	5	13. 高専祭実行委員より	16
4. 2年担任からの挨拶	6	14. 寮生会より	17
5. 3年担任からの挨拶	7	15. 航空技術者プログラムの紹介	18
6. 4年・5年担任からの挨拶	8	16. 観光・地域共生デザインコースの紹介	19
7. 専攻科の紹介	9	17. キャリア教育センター活動紹介	20
8. 課外活動・コンテストについて	10-11	18. 卒業生の活躍の様子	21-22
9. 1年生クラス紹介・入学してからの感想	12	19. 後学期行事予定表	23
10. 2年生クラスの様子・活動紹介	13		



沖縄工業高等専門学校

すずき こうじ
校長 鈴木 康司

少々時間がたってしまいましたが、4月に沖縄高専の新たなメンバーとして加わりました新入生・編入生・転入生・留学生、合わせて197名の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員を代表して心からお慶び申し上げます。皆さんは新しい知識、技術を習得するために高専を受験して高い倍率を乗り越えて合格を勝ち取りました。高専を目指した時の意気込み、合格通知を受け取った時の達成感をいつまでも忘れずに心に刻んでください。

この原稿を書いているときにサッカーワールドカップが開かれていました。あと一步のところまでブラジルチームを追いつめて大健闘を見せてくれましたよね。でも「あと1歩、1秒、1mのところ勝負の世界があった。その差を埋めなくては。」と悔しさをにじみ出していた選手もいました。自分の限界がどこにあるのか、挫折、失敗を繰り返し何が不足しているのか、何を改善しなければいけないのかを認識するまで挑戦を続け練習を積み重ねたからこそそのコメントだし、そこまで努力をしたから人目をばからずグラウンドで泣き崩れたのでしょうか。私自身への問でもあります。あなたはそこまで打ち込めたものがいくつありますか。人は易きに流れやすいもの、努力しようとせず失敗するくらいならもうここでいいやと妥協してしまうこともあります。これはものづくりや技術開発でも起こり得ます。

高専でのものづくりと言え、ロボコンが有名ですね。他にも様々なコンテストや運動部の大会でもやり尽くしたという所まで達するのは困難です。NHKで超一流のエンジニアたちが極限のアイデアとテクニックを競う技術開発「魔改造の夜」というエンターテインメント番組があります。ロボコンのように与えられる課題に対していくつかのルールは設けられていますが、失敗してもかまわない、失敗はエンジニアにとって宝である、競技としての勝敗は着くが負けてもそれは失敗ではない、をコンセプトとして改造を進めていきます。その出場者が、技術者は困難な壁があった時乗り越えようとする意地がなければいけない、敗者は今ここで悔しいと思った時に成長する、悔しいと思った人に未来はあると言っていました。

皆さんも今後研究者や技術者として、まだ世に出ていないものを発明開発する場合に必ずこの壁にぶつかります。私も経験しています。何度も失敗し挫折を味わい、悔しい、これ以上何を試みればいいのかという限界に近づいていくことになります。でもそれを克服できた時は、何にも代えられない達成感、満足感というものが得られます。より困難な課題であればあるほど技術者冥利に尽きるという思いを味わうこととなるでしょう。そのアプローチも大切です。思った成果が出ない時は、なぜ失敗したのかを謙虚に分析をして、その失敗から学べたことを次への対策へつなげることが大切です。同じ失敗実験で、Aさんは3つの原因しか考えられなくても自分は5つ原因を探せられれば、次はその因子を5つ、初めから排除できるということです。失敗をした数は、悔しさを味わった数は誰にも負けないと言う位で突き止めてみる意地を持つことも時には必要だと感じます。

高専の学生実験の殆どが、答えが既にわかっている実験を再現させるものです。でも課題研究や卒研実験などは、まだ誰もトライしていない、答えを出したことが無いものばかりです。同じ山を登るにしても登山ルートはいくつかあります。今の技術と体力で登るにはどのルートを選べばよいのか、これも自分の限界を知らないと挫折して登頂できないこともあります。これらは多くの時間と忍耐を積んで学んでいくものですし、経験を積んだだけレベルも上がっていきます。

若い皆さんはやっとスタートラインに立った所、今後いろいろな場面で挫折、失敗を経験することでしょう。でもその失敗を味わわないと成功体験も得られません。失敗をして凹んでいる時間はありません。自分自身を切り開くのはあなたの努力次第です。前を向いて進みましょう。栄光のゴールを勝ち取るまで！

副校長の紹介



副校長
(寮務主事担当)

バイティガ ザカリ

◎自分の畑の中で一番好きな作物

落花生（自家製ピーナッツバターを作るため）

R5. 4月～R7. 3月:タイ王国、タイ高専に派遣。

タイ人の教員に、日本の高専教育における指導方法やサポート体制などを伝授した。

学生に対しては、タイ高専の『失敗を恐れずに学ぶ』というスローガンを元に、プログラミング言語や工学系の科目を教えた。

R7. 4月～R8. 3月:副寮務主事として奮闘した。

R8. 4月～寮務主事として約半年間が経過し、現在も奔走中。

学生にとって寮は『第2の家庭』であり、できるだけ生活し、学習しやすい環境を整えたいと考え、ときには学生の意見も取り入れ、試行錯誤しながら取り組んでいる。

また寮は共同生活であるため、一人ひとりが責任ある行動を取ること、良好な人間関係を作るとともに、のちに社会に出た時に重要かつ基本的なマナーであることを学んでほしいと思っている。

教育においては、タイ高専の『失敗から学ぶ成長』を沖縄の学生達にも伝えたいと考えている。沖縄高専は学生が自由に発想し、大胆に実行できるための場所であり、教員はいつでもそれを受け止める準備をしているということを言葉と行動で示していきたい。



副校長
(教務・入試担当)

やま だ ちかとし
山田 親稔

◎好きなアーティスト

ケツメイシ（元気をもらえます！）

本校での学びは、授業で知識を身に付けるだけではなく、実験・実習や課外活動、地域との交流など、さまざまな経験を通して成長できることが大きな魅力です。失敗を恐れず新しいことに挑戦し、その経験を次の一歩につなげてください。一人ひとりの小さな積み重ねが、将来の大きな力になります。皆さんが自ら考え、仲間と協力しながら充実した学校生活を送ることを期待しています。



副校長
(学生・キャリア支援担当)

かみさと しほこ
神里 志穂子

◎今の目標

自分を生ききるぞ！

学生主事になって、いろんな学生と面談する機会が増え、毎回、面談した学生達に繰り返し伝えている言葉があるなぁと気がつきました。

「自分の事は、自分しか守れない」や「自分を大切にしてください」、「自分を幸せにしてあげなさい」などなど…。私から学生へ伝えているメッセージですが、自然と自分自身に向けても何度も伝えていたようです。(^^;) 私も毎日、今日も幸せだなぁ～と口にして、笑顔で過ごしています。

いろいろな経験を積みながら、少しずつ成長している学生達ですが、時に不安になったり、心が疲れてしまったりすることがあります。

そんな時には、周りの友達や大人を頼りにして、時間をかけて自分を幸せに、笑顔にしてあげて欲しいと思います。



副校長
(教育改革担当)

ま き し おさむ
眞喜志 治

◎伝えても理解してもらえないと思う事

客観性のない正義では、正しい未来を創れない

調べたわけではありませんが、全国の高専を見渡しても、副校長を務めながら学級担任も兼務するポストは沖縄高専にのみ存在しているものと思われます。特に苦痛を感じることもなく楽しく務めることができていると思い込んでいます。どちらも重要な役目だと受け止めていますが、その動きに疑問しか持てないKCやBCの相手より、今のところ明るい未来を期待できる学生を相手にする学級担任の方が、比較にならないほど日々を充実させてくれます。



副校長
(総務担当・事務部長)
かめい こうじ
亀井 耕治

Qこれから先、同じ食べ物しか食べられないなら？
お寿司(最近ハマってます)

突然ですが、「若さ」から連想されるものって何でしょう？言葉を選ばずに言うと、「若さ」は「愚かでも良い」ということだと思います。経験が浅く、判断を誤り、無駄を繰り返す。だが、その愚かさは決して欠点ではない。若さゆえ何かに挑戦したとしても、社会的には未熟であることが前提であるため、多少の失敗や試行錯誤は許容されやすいし、成功したときは「若いのにすごい」として通常以上に評価されやすい。これはまさに、「若さ」に与えられたボーナス。年長者は「愚かさ」を恥じますが、若者は「愚かさ」を武器とすることができるのです。このボーナスを活かさない手はありません。しかし、その価値は年齢とともに薄れていきます。だからこそ、若いうちにどれだけの経験と実績を積めるかが、将来の選択肢を広げる鍵となるでしょう。何かやるなら若いうちですぞ。今を生きる若者は、人生の中で最も豊かな資産を手に入れているのに、その価値に気づくのは残念ながら老いてからなのです。大切な若き時間を無自覚に過ごすか、自覚的に燃やし尽くすか。その差こそが、その後の人生の豊かさを決定づけると言っても過言ではないでしょう。まずは、行動から！



副校長
(研究・産学連携担当)
たまき たつひろ
玉城 龍洋

Q今年の目標
「協調・協働」を大切に。

今年度より研究・産学連携担当副校長を拝命しました。高専の先生方は、自身の研究に真摯に取り組まれており、その成果を学生に伝える重要な役割を担っていますが、私自身も含めて、産業界との連携が希薄な方が多いと感じています。我々には、高等教育機関として研究成果を社会に還元すること、沖縄高専として沖縄の産業界に貢献する使命があります。これからは学校全体で地域貢献を目指して努力してまいります。

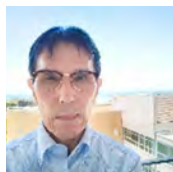


副校長
(国際交流担当)
たなか ひろし
田中 博

Q最近思うこと
空はつながっている！

飛行機に乗るとき、決まって窓側の席に座ります。空港が雨でも雲の上は晴れ、空は青く、そしてどこまでもつながっています。「どこまでもつながってる？」と思うとき、「どこまでもつながっているな〜」、そして「空は、いつでも、どこからでも自分のところに戻ってこられる」と感じ始めました。自分が引いた「境界」を少しずつ越え、「新しいもの」に出会い、お互いがつながってく…、次はどこで、何をしようかな？

1年担任からの挨拶



こいけ かずとし
1年1組担任 小池 寿俊

Q リラックスする時間

ゆっくりとコーヒーを飲みながら本を読むこと

1年1組担任の小池です。基礎数学Ⅱという科目を担当しています。ある先生によると、「毎年1年1組は、大人しく静かで優等生」だそうです。私も似たイメージですが、特に自分が担任の年に「おとなしく静か」は当てはまるような気がしています。今年はなんとかそれを打破して、と思っていましたが、やはり傾向は同じようです。口うるさくあれこれ言うてしまうので、私の前ではそう見えるのかもしれませんが。

それでも体育祭のクラス対抗リレーや新歓球技大会（バレーボール）は、担任が私とは思えないパフォーマンスを発揮してくれました。単なる運動神経の問題だけでなく、いろいろと事前に相談や練習をしていたようです。みんな盛り上がり楽しんでいました。私は見ているだけだったからかもしれませんが。

学習についても、ほとんどの学生が授業も含めて真面目に取り組んでくれています。この原稿を書いている7月中旬は、暑さや疲れのせいか、例年授業に集中できない学生が目立ち始める時期です。さすがにゼロとは言えませんが、1組に限らず4クラスとも例年より少ない印象です。

これからも1年1組のみんなが楽しく充実した学生生活を過ごせるよう、少しでも力になればと思っております。



わた の だい
1年2組担任 和多野 大

Q 最近思うこと

近々虹の橋を越えていきそううちのねこを一日も長く愛でたいです

わた〜によです！前期終わりましたね。今年の1年生、いい感じですよ、元気でノリがいい！スポーツ実技の授業も楽しいですね、スポーツ技能が高めの学生が多い印象です。長らく顧問を務めている水泳部でも1年生のプロスペクトが現れました、しかも2組から！今年は全国高専大会へ5年生と1年生の2名を引率します、世代交代を感じます！これから長く、活躍していったほしいと思います。

高専は自分の好きなこと、突き詰めていける環境があります。始めたら本気出して、4～5年間追求していったほしいです！やがてそれが、自分のアイデンティティに、なっていくですよ。方向転換もあっていいですが、つまみ食いばかりとか続かないのでは、モノにならないです。評価のため就職のためではなく、認めていける自分を磨いていったほしいな！妥協なくストイックに、クールにかっこよく、求めたい目指したい・なりたい自分を見失わないで過ごしていけたらいいよね。



きんじょう いちこ
1年3組担任 金城 伊智子

Q テンションが上がる瞬間

ディズニーランドが視界に入ってきたとき

今年の1年生は、3組の学生達はもとより他のクラスの学生達も分からないことは積極的に質問することができる、という力を持っている学生達が多いように思います。それは簡単なことで、誰でも持っている力のように思えますが、成長するにつれて難しいことになってしまうことでもあります。しかし、その力を持っている学生が多く、友達に聞く、先生に聞く、といったことができているように思います。これからは分からないことに興味を持って、問題を解決し、そして知識をたくさん吸収して成長してってくれることを願っています。分からないことを誰かに質問できる力は、大人になってからも役に立ちます。今持っている力を失わず、これからも質問してくださいね。そして、私がなにより3組の良いところだと思っているのが、「皆が学校に来ること」です。体調が悪い日はしかたがありませんが、欠席が少ないため、SHRの時に皆の顔を見られることがなにより嬉しいです。



ま き し おさむ
1年4組担任 眞喜志 治

Q 最近の発見

レトロゲームは侮れない

1年4組は、個性豊かで活発な43名で構成されています。入学から3カ月近く経ち、それぞれが真の高専生となるべく、朝から元気にチームワークを磨きながら、日々成長しているように思います。現在、クラスには、複数の小さなグループ、男女混合の中規模なグループ、一人で過ごすことを好む複数の学生、が混在していますが、全体として、まとまりのある明るいクラスだと思っています。現時点では、「ワンチーム」と呼べるほど強固な絆と相互理解は構築されていませんが、それでも、体育祭で学年一位となり、球技大会では決勝トーナメントに進出し、緊急時にはお互いをフォローして即座に対応するなど、その片鱗を垣間見ることができます。このような、完成形が楽しみなクラスにあって、学生の成長を見守るだけでなく、信頼に値する面白おかしい担任となれるように、僕自身も努力したいと思っています。

2年担任からの挨拶



しもごおり たけし
2年1組担任 下郡 剛

🕒好きな食べ物

スイカとトマトに塩をかけて食べること。

1組担任の下郡剛です。歴史学概論担当です。

今年の1組の印象。物事を決めてゆく、めっちゃめっちゃ早いんですね。級長と副級長がリーダーシップとして、どんどん話を前に進めてゆく。周囲もそれに合わせて積極的に意見を言ってゆく。なので停滞感がない。トントン拍子に話しが進んでゆく。そんな印象です。「主体的に動ける」とか「能動的に行動できる」とかいうやつだはず、きっと。

レクも決まるの早かった。昔は前期と後期に1回ずつ、積極的にレク入れてたんです。楽しいのが一番と思って。でも、レクって一方で、めんどくさがる学生とかもいること知って、積極的に推奨しなくなったんです。コロナ以後やらなくなって、今年は、希望する学生が多ければ、1回くらいはやっても良いのかな？くらいな軽い気持ちだったのに、何も知らない間に、何をするかとか全部決まって、「今度の水曜日、体育館空いてるらしいです」「え！？今度？今度は無理でしょ」とか、「木曜日の4限にやりましょう！」「いやいや、それ授業変更じゃん。水曜日だよ、やるなら」とか。これが刊行される頃にはレク終わってますね。もし楽しかったのなら、後期もやりましょう。



やまもと ひろし
2年2組担任 山本 寛

🕒1日の中で一番好きな時間

ドーナツを食べる時間

本校に赴任してから今まで結構な回数数学級担任をしてきましたが、最近は何年かブランクがあったので、久しぶりの学級担任です。どうぞよろしくお願いいたします。

LHRでの席替え、あの緊張感は私の楽しみの一つです。前の方の席になって悔しがる学生、後ろになって喜ぶ学生……。誰がどこに座るかは「くじ引き」の運ですが、私が座席を指定していくその手順一つで、その後一定期間の学生の「座席的命運」を左右すると思うと、少し緊張します。望まぬ座席になってしまった学生には、申し訳なく思います。

2年2組の学生は、50代も半ばをすぎた担任の私よりも落ち着きがあるように思います。毎日の日直も仕事をきちんとしてくれますし、週に一度の教室掃除も当番がしっかり行ってくれます。担任としてはとてもやりやすい学級です。ありがとうございます。この調子で、日頃の成果が成績や出席にもしっかり結びついてくれることを祈っています。



カーモン マコア クイオカラニ
2年3組担任

🕒1日の中で一番好きな時間

私が「ただいま」と言うと、家族が「おかえり」と言ってくれます。

今年の保護者面談で一番多かったご質問は、「成績」ではなく、「学校で楽しそうにしていますか？」でした。実は私も中学生の息子を持つ親なので、そのお気持ちはよく分かります。この年代になると、家で学校の話が減るのは自然な成長の一つです。でも、「今日は友達と〇〇したよ」の一言だけで、親は驚くほど安心します。子どもたちは失敗や挑戦を繰り返しながら成長していきます。私たち大人は、その冒険を信じ、安心して帰ってこられる場所でありたいですね。

ちなみに、私も息子に「今日、学校どうやった？」と聞くのですが、返ってくるのは「別に」「特にない」「普通」「覚えてない」「わからない」が定番です（笑）。保護者の皆様、どうぞ安心ください。同じようなやり取りをしているのは、きっと皆さんだけではありません（笑）。



まきや みき
2年4組担任 真喜屋 美樹

🕒1日の中で一番好きな時間

早朝の空気が瑞々しい時間

教室がある創造実践棟の早朝は鳥の声が心地よく、鶯の声にうりずんの季節を、アカショウビンの声に夏の訪れを感じます。自然豊かな学び舎は、勉強するには最高の環境でしょう。優れた研究成果を出し続けるハーバード大学やオックスフォード大学、ケンブリッジ大学も都心から離れた風光明媚な場所にあります。

そんな環境で学ぶ2年4組の学生達は潜在力の塊です。今夏、勉強や研究に打ち込む人の中には、国際科学コンテスト「つくば Science Edge」で入賞してシンガポールで発表する参加権を獲得し、海外の学生に交じって研究成果を発表するという貴重な経験をした学生がいます。集中的に語学に取り組んだ学生は短期の米留学に出発し、ある学生は英検2級を突破しました。放課後も教室の黒板で問題を解き続ける人、僅かな隙間時間も設計図らしきものを書いている人、ロボコンに熱中する人、校内の畑で作物を育てる人、部活を頑張る人、筋トレと自分磨きに励む人、友達との関係を通して成長していく人、注力する対象を模索する人、各々が一つ一つ経験を積み重ねる姿は眩しいばかりです。

どの学生も輝いていて、担任として4組の42人と間近に接する機会に恵まれたことはとても幸せなことで、こちらも得難い経験をしています。

3年担任からの挨拶



機械システム工学科 武村 史朗
たけむら ふみあき

Q この一年続けたこと

豆乳を飲む。果たしてLDLコレステロール改善されるか？

4月の体育祭で機械3年学生の足の速さを知りました。すごかったです。3年の大きな行事は12月の研修旅行です。LHRを使ってどこがいいかな、と学生と相談しています。AIに研修旅行プランを作ってもらうのも手だったかもなあ、と思ったりしますが、またの機会に。5月に最初の業界研究会があり、11月から、毎月のように行います。3年終わりにかけて学生も進路について考えていきます(たぶん)ので、保護者の皆さんも学生との対話をお願いします。4年の夏休みはインターンシップに行きますので、フルに自分のしたいことはしにくいはず。この3年の夏休みにするのがいいですかねえ。免許取得を考えている学生は計画的に行ってください。10月高専祭の準備は後期から本格的に始まりますが、学生がどんなことを企画するか、楽しみにしてください。来校お待ちしております。



情報通信システム工学科 比嘉 修
ひが おさむ

Q 「やめたい」けどやめられないこと

面倒な仕事を後回しにすること。結局せざるを得ないのは解っています。

3年情報の学生は非常に頑張り屋が多い一方で、周囲の学生の活躍に焦りやプレッシャーを感じている学生がいるのも事実です。学生の皆さんには、周囲に惑わされず自身のペースで、無理なく楽しく様々な挑戦をしてほしいと願っています。さて、3年生のメインイベントといえば研修旅行(修学旅行)です。情報通信システム工学科では伝統的に台湾を訪れています。初めての海外旅行となる学生も多く、担任としては楽しみな反面、無事に引率できるか不安な気持ちもあります。幸い本学科には台湾に精通した教員が多いため、初めて引率する私も先輩方の力をお借りしながら、楽しみ9割で準備を進めています。また、3年生は本科5年間のちょうど折返し地点にあたります。少し早いと思われるかもしれませんが、4年次のインターンシップや5年次の就職・進学活動を見据え、今のうちから将来の進路を意識することが大切な時期です。保護者の皆さんにおかれましても、ぜひご自宅で進路について話し合うきっかけを作っていただければ幸いです。



メディア情報工学科 當間 栄作
とうま えいさく

Q 最近のマイブーム

「Audible(オーディブル)」での耳活です。通勤中や家事をしながら、小説やビジネス書を聴く読書にハマっています。

早いもので、高専生活の折返し地点である3年生を迎えました。専門科目が増え学習内容も高度になりますが、高校受験のようなプレッシャーは少なく、自分の好きな分野に集中するチャンスの時期です。この機会を活かし、各種コンテストへの参加でスキルを磨いたり、資格取得に挑戦したりすることをお勧めします。

3年生は、卒業後の就職や進学といった自らの進路を具体的に描き始める重要な時期でもあります。日々の学びを深めることはもちろん、学外活動や行事にも主体的に挑戦し、視野を広げてほしいと願っています。ここでの取り組みが、4・5年生での進路活動に必ずつながっていきます。

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動へのご理解と温かいサポートをいただき、心より感謝申し上げます。学生たちが専門性を深め、将来の選択肢を広げる充実した1年にできるよう、担任として全力で伴走してまいります。



生物資源工学科 廣原 志保
ひろはら しほ

Q 好きな動物

ペンギン(来世は動物園のペンギンになりたいです)

3年生は、高専生活の折返し地点です。専門科目や実験が本格化し、将来の進路や専門性について考える機会も増えてきます。この時期には、知識や技術を身に付けることはもちろん、自ら課題を見つけ、挑戦し、試行錯誤を重ねながら成長していく姿勢を大切にしてほしいと思っています。私自身も高専出身ですが、学生時代は英語が苦手でした。しかし、研究を続ける中で、英語は世界中の研究者と繋がり、最新の知識・技術を学ぶために必須であり、今でも毎日学び続けています。苦手なことでも諦めず、一歩ずつ挑戦を積み重ねることで、できることは必ず増えていきます。学生の皆さんには、本校での様々な学びや経験を通し自ら成長し続けられる人へと歩んでいくことを期待しています。

日頃より学生を温かく見守り、支えてくださっている保護者の皆様へ心より感謝申し上げます。保護者の皆様と連携しながら、学生達の成長を支えてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4年担任からの挨拶



機械システム工学科 もりざわ せいいちろう 森澤 征一郎

🗨️今までにしたアルバイト

ライブやコンサートのスタッフとして、会場の設営や撤去、リハーサルの雑用、楽屋口前のパスチェックなどを担当していました。

インターンシップ実習、どうだったでしょうか？普段とは違う環境に飛び込むことでいろんな気づきがあったかもしれません。機械4年は、本科5年間で最も忙しい1年である一方で、進路を考える上で重要な1年となります。後悔のないよう、さまざまな挑戦をしてください。



情報通信システム工学科 なかひら かつ や 中平 勝也

🗨️最近のマイブーム

カイトサーフィン

いよいよ4年生。専門分野の学びが深まり、自身の技術をどう社会に活かすか考え始める重要な時期ですね。最近の私のマイブームは、休日のシュノーケリングです。沖縄の海に潜ると、一時は白化が心配されたサンゴ礁に、少しずつ色鮮やかな魚たちが戻ってきている様子を肌で感じることができ、とてもワクワクしています。AIやIoTの技術を用いて、こうした豊かな自然を守り、社会課題を解決していく。皆さんと一緒に、そんな実践的なモノづくりに挑戦できることを楽しみにしています。



メディア情報工学科 たま き たつひろ 玉城 龍洋

🗨️子供の頃の夢

漫画の博士に憧れて、その職業に就くことができ、でも研究より教えることの楽しさを知りました。

久しぶりの担任です。やはり楽しいですね。みんなと話をし、笑って、怒って、卒業までの成長のきっかけになれるよう頑張ります。



生物資源工学科 た な か ひろし 田中 博

🗨️みんなに伝えている言葉

「人」「本」「旅」でGo!

ひとり一人がどんな力を見せるか、どんなことに気づくか、どんなことをし始めるか、9月28日が楽しみです。

5年担任からの挨拶



機械システム工学科 ひ が よしかず 比嘉 吉一

🗨️「なんでなん？」と思っていること

ヘッドライトとフロントガラスへの度重なる飛び石（泣）

最近になってHM/HRのライブに再参戦！
「あの頃の」様式美サウンドが良いんです♪絶賛、大人の財力を発動中（笑）



情報通信システム工学科 かめはま ひろ き 亀濱 博紀

🗨️得意になりつつある事

1人6役のごっこ遊び（4歳の娘と）

今年の5年情報生は進路への意識が非常に高く、8月時点でほとんどの学生が進路を決定しています。担任として、一人ひとりが自分で選んだ道へ自信を持って踏み出せるよう、残りの学生生活も全力でサポートしていきます。

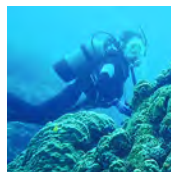


メディア情報工学科 きんじょう あつ し 金城 篤史

🗨️一言コメント

健康って大切

自分の健康だけでなく、人の健康も大切。お互いに気遣いながら過ごせるといいなと思います。



生物資源工学科 いそむら なお こ 磯村 尚子

🗨️好きな動物

サンゴ、イヌ、ウマ、キンギョ

今年から生物資源工学科5年の担任になりました。
好きな動物はサンゴ、イヌ、ウマ、キンギョです。

専攻科の紹介



専攻科長 玉城 龍洋 たまき たつひろ

最近のマイブーム

元々ものづくりが好きで何でも自作していましたが、最近は人のDIY動画も楽しく見てます。

今年度より専攻科長を拝命しました。どうぞよろしくお願いいたします。

高等専門学校に配置される専攻科は、本科5年間で卒業後に2年間の専門教育を行うための教育課程になります。定員は本科の1学年4学科の160名に対して専攻科は24名と少数となり、少し寂しく感じることもあるかと思いますが、少数精鋭の手厚い教育を特徴としています。

本校の専攻科は、創造システム工学専攻の下に本科の各学科に該当する「機械システム工学コース」、「電子通信システム工学コース」、「情報工学コース」、「生物資源工学コース」の4つのコースがあります。その教育課程は、基本的には本科の各学科の専門の内容をより高度にしたものが配置されます。また専攻科修了時には4年制大学と同等の学士の学位が修得できる独立行政法人大学改革支援・学位授与機構認定の認定専攻科になります。このように専攻科まで進学すると4年制大学と同等の学位が取れる仕組みになっているのですが、優秀な高専（生）に接続された専攻科は、当然その講義内容、研究内容が高度となり、一般的な大学院修士課程と同等レベルのものも実施されることとなります。より早くより高度な技術・知識を求めている学生はぜひ検討していただきたいと思います。

先述の通り、高度な研究・講義を行う専攻科ですが、高専に接続された教育課程のため実践的な内容の講義も含まれます。特に全コース学生が履修する「創造システム工学実験」の講義では週4コマの講義枠を使って、実際の地域課題に対して、解決策の提案から実装、発表までの一連のプロセスを外部の人と協働で挑みます。これまで、ビール製造過程で出る麦芽等の残渣を活用した商品開発や特別支援学校で使う教材づくり、名護こども食堂と連携した沖縄伝統のサバニ再建プロジェクトなどを実施してきました。今年度のテーマは下記の通りでそれぞれ素晴らしい成果を出しています。

- Aチーム：サバニを用いた地域活性化及び子ども支援プロジェクト
- Bチーム：水耕栽培キットとVR環境を併用した多感覚学習アプローチの実践
- Cチーム：観光客の偏在解消プラットフォームおよび周遊促進グッズの開発
- Dチーム：新商品開発と科学技術体験による地域支援プロジェクト

専攻科2年生になると「特別研究Ⅱ」に取り組みます。これは1年生の「特別研究ⅠA」、「特別研究ⅠB」、そして本科5年生「卒業研究」を合わせると3年目の研究活動になります。ここも大学院相当といわれる所以で、高度な研究成果により、学生によっては国際学会で発表するなど22歳という年齢で考えると非常に恵まれた環境です。

知識、技術、研究とすべてにおいて大学に負けない内容となっています。進学を検討している学生の皆さん、保護者の皆様はぜひ候補の一つに挙げていただければと思います。

課外活動・コンテスト実績

令和8年度九州沖縄地区高専体育大会主要実績

種 目 名	成 績
水泳 男子100m背泳ぎ	3位（全国大会出場）
水泳 男子100mバタフライ	3位（全国大会出場）
水泳 男子100m自由形	6位
水泳 男子50m自由形	4位
テニス 女子団体	優勝（全国大会出場）
テニス 女子シングルス	準優勝（全国大会出場）
テニス 女子ダブルス	優勝（全国大会出場）、3位
弓道 男子団体	優勝（全国大会出場）
弓道 女子団体	3位（全国大会出場）
弓道 男子個人	優勝、4位、5位（全国大会出場）
弓道 女子個人	3位（全国大会出場）



課外活動・コンテスト実績

■コンテスト関係主要実績

コンテスト名	成 績
第7回全国高等専門学校 ディープラーニングコンテスト (DCON2026)	・2位、経済産業大臣賞、セブン銀行賞 チーム名：ReWave 作 品 名：通信の空白地帯を消す!AIで被災地を可視化する災害デバイス「アドフォン」 ・3位、トピー工業賞、アイング賞、千代田化工建設賞、ビズリーチ賞 チーム名：Seesar Labs 作 品 名：HIKES(AIカメラと地上走行型ロボットを用いた、初期消火特化型の次世代消防プラットフォーム) ・NGK賞、村田製作所賞 チーム名：Omoide. Lab 作 品 名：VocaSense ～声の揺らぎが知らせる認知症のサイン～ ・特別展示賞 チーム名：NAKAHI. lab 作 品 名：脳に「良い姿勢」を再学習させる行動変容支援デバイス RelaNeck
つくば Science Edge2026	・未来指向賞（2位相当） テーマ：宇宙空間での持続可能な食糧供給を実現する水耕栽培オートメーションシステム
高専ワイヤレステックコンテスト 2025 (WiCON2025)	・総務大臣賞（最優秀賞）、ソフトバンク賞、NEC 賞 チーム名：おきなわりうえ〜ぶ テ ー マ：5G×LPWA によるハイブリッド災害時デバイス「アドフォン」 ・KDDI エンジニアリング賞、日立システムズ賞 チーム名：沖縄天空ファーム テ ー マ：宇宙空間での持続可能な食糧供給を実現する水耕栽培オートメーションシステム
第 14 回サイエンス in 沖縄：起業のための研究能力 サイエンスフェア (SCORE!)	・優勝（1位）プレゼンテーション審査 テ ー マ：沖縄産コーヒー残渣とマイクロエマルジョン技術を応用した高機能バイオコスメ Café de Okinawa の開発 ・優勝（1位）ポスター審査 テ ー マ：水中AIドローンシステムを用いたサンゴ白化回復プロジェクト
第4回高専 GIRLS SDGs × Technology Contest (高専 GCON2025)	・ファイナリスト賞 チーム名：とっとこミューオン隊! テ ー マ：宇宙放射線テクノロジーを活用した大規模防災エコシステム COSMOS
第6回全国高等専門学校インフラマネジメント テクノロジーコンテスト (インフラテクコン 2025)	・準グランプリ チーム名：PUNITTO テ ー マ：定期清掃で点検 BIIIIIIIM! (BIM) ・審査委員特別賞 チーム名：沖縄 GEOMUON テ ー マ：宇宙線ミュオグラフィとマルチスペクトル観測を統合した非破壊・広域型土砂災害モニタリングシステム
第 32 回全国高等専門学校将棋大会	・団体戦3位
第3回ネイチャー甲子園（生きもの調査部門）	・優勝（1位） チーム名：沖縄高専 テ ー マ：身近な自然の多様性

1年生クラス紹介・入学してからの感想



うえすぎ ゆうと
上杉 優斗



1年1組の前期級長をしています。機械システム工学科の上杉優斗です。
1組の担任は仏の小池こと小池先生と、副担任の年が近く親しみやすい比嘉先生です。入学したばかりの頃は、お互いどのような人なのか分からず、席が近い人同士で集まっているような雰囲気でした。しかし、小池先生が企画してくださった名刺交換やトランプなどの活動を通して、少しずつクラスメイトと仲良くなることができました。

1組は親しみやすく、話しやすい人が多いクラスです。時々「大丈夫かな」と心配になる人もいますが、みんな優しく良い人たちです。最初はあまり話したことのない人もいましたが、今ではクラスのみんなとしょうもない話や何気ない話で笑い合えるようになりました。このような日々を通して、1組はお互いを認め合い、支え合うことができる仲の良いクラスだと感じています。また、沖縄高専に入学してからは、高専ならではの学科別の専門科目や実験・実習を経験し、とても興味深く感じています。入学前は授業についていけるか不安もありましたが、実際に学んでみると、先生方は説明を丁寧にしてくださり、例題などを用いながら順を追って教えてくれるため、とても理解しやすいと感じています。そのおかげで、不安を感じることなく学習に取り組むことができています。周りの人たちはとても親切で、分からないことがあれば気軽に相談することができます。質問をすると一緒に考えてくれる人が多く、とても学びやすい環境だと感じました。そして、高専に入って驚いたことは、メリハリをつけるのが上手な人が多いことです。普段はあまり勉強していないように見える人でも、テスト前になると普段の様子からは想像できないほど真剣に勉強しています。その姿を見て、「ここは高専なんだ」と改めて実感しました。沖縄高専での生活を通して、専門知識だけでなく、自主的に学ぶ姿勢や仲間と協力することの大切さも学んでいます。これからもクラスメイトや周りの仲間と切磋琢磨しながら、自分の目標に向かって努力し、さらに成長していきたいと思っています。



まつやま ねい
松山 寧維



高専だよりを見ている皆さんこんにちは！1年2組前期級長の名をさずかりました、生物資源工学科の松山寧維と申します。

我々、1年2組は男子(野郎ども)33人、女子(お嬢様方)10人の生徒で構成され、教室で腕立て伏せをする生徒や、学年一のイケメンで運動ができる生徒、なぜかプログラミングが桁違いにできる生徒などなど、個性豊かで陽気なクラスです。しかし、女子が少ない高専において、クラス分けの際にミスがあり、他クラスに比べ女子が少ないなど、少しかわいそうなクラスでもあります。(笑)

また、1年2組の担任の「わた〜によ」こと、明るく元気で男前な和多野先生や、マシンガントークで面白い物知りな副担任の木村先生など先生ガチャにおいて最高に神引きしたクラスでもあります。

さて、前期に比べ、後期では皆が楽しみで待ちきれない「☆高専・祭☆」という大きな行事が待っています。

1年2組の皆が一致団結し、我々の良さである個性を最大限に引き出した面白おかしい最高な出し物を準備していますので、ぜひ私たち1年2組のブースに足を運んでみてください！



やまぐち りく
山口 莉空



高専だよりを今読んでいるそのあなた！こんにちは！！

1年3組の前期級長、機械システム工学科の山口莉空です。担任は金城伊智子先生で副担任は成田誠先生です。私たち1年3組は一人一人が個性を持っていて、毎日が楽しく、そして毎日が騒がしい学級です。普段のクラスの様子は放課後や空きコマの時間に集まってゲームをしている人がいたり、黙々と作業している人がいたり、寝ていたりする人がいるなど各々自由に高専生活を過ごしています。ちなみに自分はいつもカメラを持って外を徘徊して写真撮っています。

入学してすぐは、授業についていけるのか、県外から来たからクラスに馴染めるのか、友達ができるのか色々不安でしたが、何か分からないところがあれば、先生に聞けば丁寧にたくさん教えてくれました。また、高専は色々な趣味を持った人がいるのと、県外生は想像するより多かったりで友達は思ったより早くできました。そして、留年することは成績が足りないということより出席日数が足りていないことが多いそうなので、毎日元気に過ごしましょう！！

中学生の皆さんが沖縄高専に入学してくることをお待ちしております！



ふるまき はやと
古牧 隼人



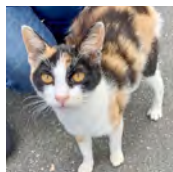
1年4組前期級長の古牧隼人です。私たち4組は、フランクでユーモアあふれた担任の眞喜志先生と、ファンクラブがあると噂の副担任の吉居先生、そして、個性が爆発しすぎている43名の生徒によって構成されている最高のクラスです。

入学当初は、休み時間になっても教室がシーンとしていて、ちゃんとクラスに馴染めるかが不安でしたが、学校探検や体育祭などを通して、今では授業中にも笑いが発生するほど仲良しで明るいクラスになりました。

四組のメンバーには面白くて話しやすい人がたくさんいます。投資に興味をもつ坊主や、急にカラオケをしだすメガネ、サーキュレーターを占領しだす人など、普通の枠にはおさまらない(いい意味での)変人や個性派ばかりが集まっています。普段は全力でぶざけあっていますが、球技大会や体育祭、テストなど「やるときはやる」ことができるまさに「真面目に不真面目」を体現したようなクラスです。

これから後期になると、勉強が難しくなったり、高専祭という大きなイベントがあって、大変になると思います。ですが、だからこそ、これからもみんなで協力して最高の4組にしていきたいと思います！！

2年生クラスの様子・活動紹介



おおみね ことは
大嶺 琴葉



こんにちは。2年1組前期級長の大嶺琴葉です。
担任から学級紹介文を任されたとき、「400字も書くほど紹介することなくない?」と思いましたが、考えた結果、このクラス一番の魅力である担任・下郡剛先生の紹介をさせていただきます。下郡先生の面白さは、2年生にある歴史の授業を受ければわかりますが、とにかく予測不能な発言で教室を笑わせてくれます。高専の教員あるあるかもしれませんが、「中学校や高校の教員は絶対言わない(言っちゃだめ)だろうな」というギリギリラインの発言も普通にします。授業中のド忘れ、メールでの話し言葉全開、誤字脱字は日常です。そんな飾らないところも下郡先生らしさであり、生徒から親しまれている理由だと思います。

そういえば、冒頭で紹介することがないと思っていましたが、2年1組は体育祭で見事総合優勝を果たしています。なぜ優勝できたのかは正直よく分かっていませんが、一人一人が自分の役割を果たし、自然と力を合わせられた結果なのだと思います。

体育祭で見たチームワークを大切にしながら、担任の下郡先生、副担任の津村先生、そして42人のクラスメイトとともに、思い出に残る一年をつくっていきます。



いしがき まい
石垣 舞



2年2組前期級長を務めさせていただきました、機械システム工学科の石垣です。先日、担任の先生から高専だよりに掲載するクラス紹介文を書く使命をいただきました。第一言語にも関わらず、日本語が得意ではないので、温かい目で見守ってください。

担任の山本先生は微積分の先生です。授業中には最近のアニメの話など、世代の差を感じさせない身近な話題で場を和ませてくださいます。また、席替えもゲーム形式で行うなど、クラスみんなが楽しめるよう工夫してくださる、とても親しみやすい先生です。先生のそうした気配りのおかげで、毎日の学校生活がより楽しいものになっていると感じています。

2組は、とても仲が良く、まとまりのあるクラスです。普段は比較的静かで落ち着いた雰囲気なので、歴史やESKの授業では先生からの問いかけに誰も反応できず、教室が気まずい空気になることもしばしばあります。でも、それも今となっては2組らしいところかなと思っています。

また、体育祭や高専祭について私がある存在を忘れてしまうと、話しかけて思い出させてくれたりします。そのおかげでホームルームでも提案しやすく、とても助けられました。周りのことを考えて行動できる優しい人が多いクラスだと感じています。

後期級長もすでに決まり、これから行事も増えて忙しくなるとはありますが、頑張ってください。



ともり いおん
友利 唯温



2年3組は、明るく活気があり、何事にもクラス全員で協力して取り組めることが大きな魅力です。普段の学校生活でも、学習中にわからないことがあると教え合うなど、お互いに支え合う雰囲気があります。クラス企画について話し合った際には、級長を中心に一人ひとりが積極的に意見を出し合い、全員でより良い案を考えました。一部の人だけが決めるのではなく、全員で納得できる形を目指して話し合えることは、2年3組ならではの強みだと思います。また、委員会を決める際には多くの人が立候補し、それぞれの考えや意欲を聞いた上で投票を行いました。誰かに任せるとは、自分たちの手でより良いクラスをつくらうとする主体的な姿勢が感じられ、とても頼もしく思いました。授業では協力して課題に取り組み、分からないことがあれば教え合うなど、互いに高め合える関係も築けています。これから控えている高専祭などの学校行事でも、この団結力と明るさを生かし、クラス全員で思い出に残る行事をつくり上げていきたいです。困難なことがあっても、一人ひとりが意見を出し合い、支え合いながら乗り越え、笑顔あふれる最高のクラスを目指して挑戦を続けていきます。



きんじょう りょうや
金城 良哉



私たち4組は、最初から仲が良く、まとまっていたわけではありません。役員決めなどの話し合いでもなかなか意見が出ず、決まるまでに時間がかかることがありました。級長である私自身の力不足もあり、クラスをまとめることの難しさを感じていました。

そんな私たちのクラスが変わるきっかけになったのは、前期中間テストの終わりに担任の真喜屋先生が提案してくださった、みんなで楽しむパーティーでした。いつも私たちのことを真剣に考えてくださる真喜屋先生の提案を受け、クラス役員で企画・準備を行い、楽しい時間を過ごすことができました。このパーティーを通して少しずつ会話が増え、お互いの距離も縮まったように感じます。

最初はまとまりのなかった私たちですが、今では少しずつ互いに協力できるクラスになってきました。これからも協力し合うことを大切にし、後期の高専祭もクラス一丸となって楽しみ、最高の思い出を作っていきます。

3年生クラスの様子・活動紹介



機械システム工学科

しま けいすけ
島 京佑

おはようございますこんにちはこんばんは、三年機械科の前期級長を務めています島京佑です。

三年機械科の皆は自由奔放でそれぞれの個性や得意分野を日々活躍させているような人達でたくさんです。また、非常に感情豊かで席替えて行うルーレットですら、本気で自分の気持ちを表しています。

つまり、毎日に飽きず、楽しいクラスです。四月にあった体育祭では、全員で協力して全力で取り組み、無事に三学年での優勝を勝ち取りました。

話を三年生の機械科に変えます。一年生や二年生でわずかった専門授業が、三年生に進級してから格段に増え、プログラムを書いて実行する、長さや磁気の計測を行って結果や考察としてレポートにまとめるなど…、五年生の卒業研究のために動き始めていますと実感しています。また、三年生から多くの人が進路を意識し始めて、学生会(生徒会のようなもの)や課外活動に積極的に参加する学生が増えました。同時に、最終的にどのような仕事に就きたいか、目標が曖昧である人も多くいます。

僕たち機械システム工学科は迷いながらも様々なことに全力で取り組み、活動しています。それは十月に開催する高専祭にも言えることです。なので、もし高専祭に参加されましたら、ぜひ三年機械科にお越しいただけると全力で喜びます！



情報通信システム工学科

く し けん ぜん と
具志堅 全音

みなさん、こんにちは。3年情報通信システム工学科 前期級長の具志堅全音です。

3年情報の学生は休み時間など、仲良しグループで集まって話していることが多いですが、実はクラス全員の仲が良く、どんな組み合わせでグループ活動を行っても会話が絶えない明るいクラスです。また、情報通信システム工学科は実験科目が多いため、チームの一人ひとりが自分にできる役割を果たして主体的に授業に臨んでおり、各自が内容をしっかり理解したうえでレポートに取り組んでいます。

12月の研修旅行では台湾に行く予定です。海外経験がある人が少ないためパスポートの取得など準備段階から少し慌たしい様子もありましたが、無事に全員の準備が整いました。後期にある研修旅行をクラスみんなで楽しめることを期待しています。

夏休み明けには高専祭や研修旅行など大きな行事が重なり大変かと思いますが、後期級長を中心にみんなで協力し、楽しい半年にできるよう頑張っていきたいと思います。



メディア情報工学科

き ゆ な あさと
喜友名 朝舜

私たち、3年メディアは個性が強く自由気ままな学生が集まっているクラスです。

普段は各々がやりたいことを好き勝手にやっていますが、クラス全体で取り組むときは一つの集団として凄まじい団結力を見せてくれます。

どの学生も責任感が強く、何事も最後までやり遂げるという強い意志を持っているため、団結した時の底力はどのクラスにも負けません。

そんな私たちのクラスを支えてくれる担任と副担任の存在も大きく、いつでも私たちを気にかけていろいろな情報を朝の SHR で伝えてくれるほか、あまり表に立たずとも裏でしっかりと支えてくれている二人は3年メディアとして非常に頼もしい担任と副担任です。

沖縄高専では、3年から各学科のクラスで固定となるため、このメンバーとはあと2年付き合っていくこととなります。3年現在は特に大きい衝突もなく、全体を通して仲の良いクラスとなっており、このような関係性を卒業まで保っていきたいと思っています。

卒業するときには、「このメンバーでよかった」「またこのメンバーで集まりたい」と心の底から思えるような、素晴らしいクラスになっていることを目指して、クラスの人々と一致団結し、切磋琢磨していきたいです。



生物資源工学科

みやざと まみ
宮里 真美

皆様ごきげんよう。生物資源工学科の宮里と申します。前期級長をつとめております。

3年生物は、穏やかで静かなクラス…かと思えばそうではなく、ひとりひとりが部活や創造研究に打ち込んでいる為、個人で見れば活気よいクラスです。

3年生になる、ということはとても大変で、寮長や指導寮生、体育祭の実行委員長、高専祭の副局長などの様々な「長」のポジションが増えます。また、専門科目が増え、就職や進学にまつわる重要な科目も出てくるので、生半可な気持ちで勉強をすると痛い目を見ます。

話は変わりますが、沖縄高専の3年生といえば研修旅行があります。我々の世代は研修旅行についてあまり衝突がなくサクサク決まってしまったので非常に怖かったです。残念ながら某 Y 先生は生物資源の教員ではないので連れていくことは出来ませんが、研修旅行の地で沖縄高専の生物資源工学科として恥じないような行動を心がけます。

来年はインターンシップ、再来年は卒業研究、と社会に出るための行事が増えていきます。まだ3年生だから、と慢心せず、自分自身が社会人としてどう貢献できるかを考えながら勉強できたらいいな、と思います。

学生会より



学生会会長
情報通信システム工学科4年

たけうち しゅうり
竹内 聖里

皆様、こんにちは。

令和8年度学生会会長を務めさせていただいております、4年情報通信システム工学科の竹内聖里と申します。

2年間の副会長の経験を経て、今年度はついに学生会長を務めております。

私が学生会活動に全力で取り組み理由は、沖縄高専が大好きだからです。

最近、私のクラスでは「カタン」という「陣取りゲーム」が流行っています。このゲームで勝つためには、土地や資源を確保しながら敵の動きに備える、「攻め」と「守り」のバランスが重要です。私も比較的ゲームに勝つ方なのですが、ときには勝利にこだわらず、愉快的「アイデア」を実現することが重要だと思います。「ここに街道を建てたら面白そう」「稲8枚と羊1枚交換しよう!」「誰も取れない謎の空間ができた!(笑)」と全く意味のない一手を頻繁にしかけていきます。一見すると

無駄に思える一手でも、ゲームを盛り上げる重要な展開に繋がるため「挑戦」も大切な要素だと考えております。

私が目指す学生会は、攻めと守りの両方を重視した「屈強な学生会」です。

今年度はこれまでに、地域清掃、放課後学習会、テスト対策講座、新入生歓迎球技大会、美ら星祭など、様々な活動に挑戦してきました。さらに広報活動や会計システムの見直し、企画のフローや仕事分担の徹底、企業との連携など、目の前の些細なことから、学校全体にかかわる大きな企画まで、全てカバーできる五角形な組織を目指しております。

私が最も大切にしたいことは、全員の「やってみたい」という強い思いを、全力で形にすることです。皆が持っているビッグなアイデアや特技を全面的に生かし、学生ならではの大きな夢(ドリーム)を描きたいです。私たち学生会に意見をたくさん聞かせてください。

皆さんの「声」が私たち学生会を、沖縄高専をより強くしてくれます。

また、私が会長になって1番思うことは、仲間に支えられていることです。48名の役員に加え、1年生の学生会体験生、先生方、事務、保護者の皆様方が私を強くしてくれます。

新しいことに挑戦でき、失敗しても再び強く立ち上がることができます。

支えてくださるすべての方への感謝を忘れず、今年度も学生会一同、攻める勇気と守る責任を持って活動してまいります。そして、全員の挑戦を形にし、沖縄高専をこれまで以上に活気あふれる笑顔な学校へ変えていけるよう、全力を尽くします。

今後とも、学生会活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



高専祭実行委員より

みなさん、こんにちは！高専祭実行委員長の上原寛士です。

今年のテーマは、**『冒険』—“好き”が導く冒険の先へ—**です。

私たちにとっての冒険は、遠くへ旅をすることだけではありません。自分の「好き」を見つけ、その気持ちを信じて一歩踏み出すことも、立派な冒険だと思います。ものづくり、音楽、ダンス、研究、ゲーム、食べることなど、「好き」の形は人それぞれです。そして、一人ひとりの「好き」が集まることで、高専祭は新しい発見や出会いが生まれる特別な場所になります。

今年も、各クラスや団体が、それぞれのこだわりを詰め込んだ企画を準備しています。展示や模擬店、ステージ発表、体験企画など、どの企画にも、たくさんの時間と工夫が込められています。会場を巡る中で、「面白い」「もっと知りたい」と思えるものに出会っていただけたら嬉しいです。

準備の中では、思い通りに進まないことや、迷うこともありました。それでも、仲間と協力しながら一つのものをつくり上げる経験は、私たちにとって大切な冒険です。この高専祭が、参加する人にも訪れる人にも、新しいことへ挑戦するきっかけになればと思います。

ぜひ、自分だけの「好き」を探しながら、高専祭という冒険を楽しんでください。みなさんのご来場を心よりお待ちしております。



高専祭実行委員長
うえはら ひろと
上原 寛士



寮生活会より

男子寮長より



情報通信システム工学科3年 **清水 祐多** しみず ゆうた

今年度、男子寮長を務めさせていただきます、情報通信システム工学科3年の清水裕多です。学生寮は、親元を離れた学生たちが共に生活し、切磋琢磨しながら成長できる貴重な場です。日々の共同生活の中では、学年や学科を超えた深い交流が生まれ、社会で必要とされる協調性や自立心を自然と身につけることができます。今年度の寮生会では、これまでの伝統を大切にしながらも、今の時代に合った新しい寮文化の構築に取り組んでいます。具体的には、昨年度スタートした先輩が後輩をサポートする学習会を今年度も継続し、寮の新たな文化として定着してきています。また、オープンキャンパスをはじめとする様々なイベントにおいても寮生同士が主体的に協力し合い、寮全体の活性化と生活環境の向上に努めています。寮生一人ひとりが安心して楽しく、そして充実した学校生活を送れるよう、各委員会と連携し、より良い寮環境の実現に向けて尽力してまいります。



うへはら ゆあ
上原 夕明

機械システム工学科3年

女子寮長より

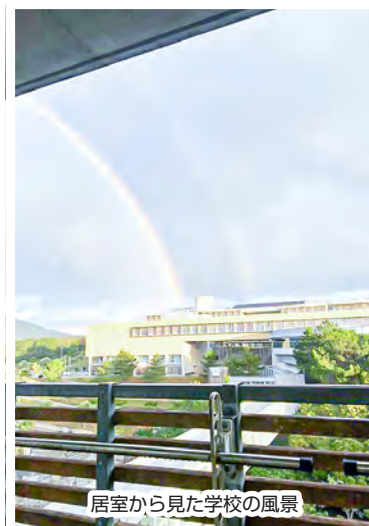
今年度女子寮長を務めさせていただきます、機械システム工学科3年の上原夕明です。

今年度の寮は、前年度に比べて多くの加点イベントを実施しています。前期では入学式やオープンキャンパスの補助員、前年度から開催されている寮内勉強会のTAなど、多くの寮生に協力をしていただきました。

前年度は副寮長を務めさせていただき、その際に達成することができなかった公約や、不安定な委員会業務の引継ぎなどを今年度で行えればと思っています。

現在の寮は規則変更やコロナ禍の慣習が重なり、様々な変化がみられる状況です。540名以上の学生が同じ場所に住んでいるため、全寮生が満場一致の納得という運営をしていくのは難しいですが、一人でも多くの寮生が快適な寮生活をする事ができるような寮づくりを努めてまいります。

今年度も沖縄高専寮生会をよろしくお願いいたします！



航空技術者プログラム紹介



1. 安心・安全でも窮屈なら楽しく前に進めない

当初、本科4年生から専攻科2年生までの4年を対象としてスタートした本プログラムを、ニーズに合わせる形で、本科2年生から本科5年生までの4年間のプログラムに改編して、今年度で5年目となります。本プログラムの概要は①の通りです。

また、本プログラムには、日本トランスオーシャン航空株式会社、全日本空輸株式会社、MRO Japan 株式会社の三社に参画いただいております、カリキュラムと各社による講義担当は②のようになっています。

履修者も年々増加しています(③)が、これは100%、航空技術者プログラムを愛する履修生の創意工夫によるもので、教職員の努力は皆無であることを、恥を忍んでここに記します。

活動場所を確保することができたため、教材も徐々に充実してきていますが、受講生は物足りなさを感じているようですので、引き続き連携企業と協議しながら、さらなる充実を目指す一年にしたいと考えています(④)。

① 航空技術者プログラムの概要

- 2年生～5年生までの4年間の教育プログラム
- 4学科が履修対象
- 履修生はそれぞれの専門分野に加え、航空技術を学ぶ
- JTA、MRO Japan、ANAと連携した実務者による実践的教育



② 講義科目

1年生	特別講義	・航空機や航空産業について(導入教育) MRO Japan
2年生	航空基礎Ⅰ	・飛行機の仕組み ・航空産業について JTA
3年生	航空基礎Ⅱ	・主要なシステムの操作と作動 ・航空事業 JTA
4年生	航空機技術Ⅰ	・航空機整備の概要 ・航空力学 JTA
4年生	インターンシップ	・航空機システム ・各種シミュレーター見学 ANA / MRO Japan
5年生	航空機技術Ⅱ	・航空法規 ・航空計器 JTA
5年生	航空実習	・航空機整備の基本技術 ・品質保証 JTA MRO Japan

③ プログラム履修学生数 (2026.5.1現在)

	機械	情報	メディア	生物	計
5年生	4	0	1	0	5
4年生	6	2	0	0	8
3年生	8	2	1	0	11
2年生	18	4	2	1	25
計	36	8	4	1	49

④ 令和7年度に導入した教材



観光・地域共生デザインコースの紹介



1. 学びの楽しさは、誰かに用意してもらうものではなく、自ら見出すもの

本コースも4年目を迎え、「観光・地域共生デザインコースとは」、を改めて整理すると、『地域の経済発展と社会的課題解決に向け、柔軟な発想力と実践力を備えた人材が求められていることから、地域の強みを見出し、それを伸ばし、地域の発展に貢献するため、新たな価値を創造できる人材を輩出できる+αの教育課程であり、本コース履修生は、所属する学科での専門知識・

技術の学びに加えて、コースの教育課程による幅広い人文社会系の素養を身に付ける』となります。客観的に見て、これまでの3年間は、十分に目的に沿った学びを提供できているものと考えています(常に不安で胸いっぱいですが)。順調に月日を重ねていると思うようにしている本コースの、令和7年度の取り組み例を以下に示します。本コースの魅力が伝わることを期待しています。

コース履修学生数 (2026.5 現在)					
	機械	情報	メディア	生物	計
4年生	6	10	17	13	46
3年生	9	10	13	18	50
2年生	8	11	20	18	57
計	23	31	50	49	153

聴講生	
学 年	聴講生数
4年生	7
3年生	1
2年生	0

【地域共生実習】(1年生開設科目)

沖縄の離島の現状を知り、課題を見つけて考える

内容：①廃棄物で工作しながら子供達と交流

②島内課題発見自由散策



現地での学びの様子

【観光DX】(2年生開設科目)

実際の企業が抱える課題を整理し、解決策を検討・具体化するプロセスを体験する。DX的な発想を活かして、観光に新しい価値を提案する力を身につける。



連携する水族館での課題解決に取り組む様子

【サステナブルツーリズム】(3年生開設科目)

沖縄県が目指す「世界から選ばれる持続可能な観光地」となるために、日本及び沖縄県がどのような方針で観光振興を知り、沖縄の文化や地域への理解を深め、残すべき資源について考え、課題解決に取り組む。



大宜味村集落でのフィールドワーク

残したい文化や資源を取り入れたツーリズムの提案

キャリア教育センター活動紹介

沖縄工業高等専門学校のキャリア教育センターは、学生たちの未来を見据えた体系的なプログラムを展開しています。その目的は、単なる進路決定支援にとどまらず、学生が自己理解を深め、社会や職業への理解を通じて、自らの進路を主体的に決定する力を養うことにあります。

1年生から専攻科2年生まで、段階的にキャリア形成を支援するプログラムを用意しており、1年生の「沖縄高専セミナー」に始まり、2年生以上の「アントレプレナーシップセミナー」、3年生の企業見学を含む研修旅行、4年生のインターンシップへとつながっていきます。近年の就活スケジュール早期化に対応し、自己分析や履歴書作成、マナー講座、適性検査対策など、実践的なプログラムも提供しています。

今年度は新たな取り組みとして、県内企業の皆様のご協力のもと、5月にインターンシップに向けた業界研究会を開催しました。3年生・4年生が参加し、その成果として県内企業へのインターンシップ参加者は昨年度の2倍となりました。地域とのつながりを深めるこの取り組みは、沖縄の産業を担う人材育成にも直結しています。

令和7年度の業界研究会は、11月に県内企業(45社)、12月と1月に県内・県外問わず(それぞれ、77社、80社)と3回にわたって開催し、延べ202社の企業にご参加いただきました。1年生から4年生まで約600名の学生が参加しています。この規模の業界研究会は県内でも屈指であり、高専生への期待の高さを表しています。

こうした活動の成果もあり、今年度の5年生は非常に積極的に就職活動に取り組み、すでにほとんどの学生の進路が決定しています。キャリア教育センターは今後も、学生一人ひとりの成長に寄り添いながら、自らの職業選択を主体的に設計する力を育み、沖縄のみならず、日本の未来を担う技術者の育成に尽力してまいります。



インターンシップに向けた業界研究会の様子



昨年度の業界研究会の様子

卒業生の活躍の様子

てる や あいの
照屋 乃野 沖縄高専14期生 機械システム工学科 卒業生



みなさん、こんにちは。

私は2022年3月に沖縄高専を卒業後、同年4月に出光興産(株)に入社しました。現在は同社の千葉事業所でPE(プロダクションエンジニア)として、石油化学装置の運転業務に携わっています。

高専の強みは、大きな企業の一員になれることだと思います。本科4・5年生の頃は、進路が明確ではありませんでした。そんな中、友人に誘われて参加した出光興産(株)千葉事業所の職場見学で、事業所の規模に圧倒され、入社を決意しました。

入社した今は、自分の仕事は何のために役に立っているかわからなくなる時もあります。しかし、私一人のミスで、事故や会社の信用問題に関わるため、責任の重さを日々実感しています。また、昨今の中東情勢によるナフサや各種石油化学製品の不足のニュースを見るなかで、現職場はまさにど真ん中の供給装置であり、使命感も湧いてきています。

高専で学んだことが活かしているか?と聞かれたら、「どちらかというとはい」 と答えてしまうと思います。ですが、無駄だったことはなく、装置には、あらゆる金属材料が使われていて、さらに化学の知識も求められます。授業で聞いた記憶はあるけど…覚えていない…という場面で後悔もあります。

最後に、高専生活は寮も含め、とても楽しかった思い出です。たくさん学んで、たくさん遊んで、今しかできないことに挑戦してください!

たく し こういち
澤岬 孝一 沖縄高専16期生 情報通信システム工学科 卒業生



沖縄高専16期情報通信システム工学科を卒業した澤岬孝一です。

私は本科卒業後、専攻科へ進学し、今年の4月から沖縄セルラー電話株式会社にエンジニアとして入社しました。現在は社会人としての第一歩を踏み出し、日々新しい知識や技術を吸収しながら業務に励んでいます。

職場では様々な方々と協力して仕事を進めるため、多様な考えに触れる毎日です。そこで活かしているのが、高専時代に培った「コミュニケーション能力」です。専攻科での実験や課題で行き詰まったとき、私は一人で抱え込まず、仲間や先生方と積極的に議論を交わすことを大切にしてきました。時には笑いを交えながらチームで解決策を探った経験が、現在の業務におけるコミュニケーションの基盤となっています。

また、高専生活の中ではプログラムのエラーなど思い通りにいかないことも多くありましたが、持ち前の「何事も楽しむ力」で前向きに乗り越えてきました。この姿勢は、エンジニアとして未知の課題に直面する今でも、私の根幹を支えています。

在校生の皆さん、高専での日々は大変なこともあります。仲間と試行錯誤した経験は、必ず将来の自信に繋がります。どんな壁も「楽しむ」気持ちを忘れず、学生生活を駆け抜けてください。応援しています!

きくやま もも
喜久山 桃

沖縄高専17期生 生物資源工学科 卒業生



生物資源工学科17期卒業生の喜久山桃です。私は現在、新潟県にある長岡技術科学大学工学部 物質生物工学分野に在学しています。

新潟は沖縄とは気候が大きく異なり、初めて迎えた冬は雪が腰ほどまで積もることに驚きました。朝は雪かきをしないと家から出られない日もあり、最初は戸惑うことばかりでしたが、今では雪国での生活にもなんとか慣れ、山岳部に入部し標高2000mを超える山々に登ったり、友人とラーメン巡りをしたり、冬にはスノーボードにも挑戦してみたりと、新潟ならではの魅力を満喫しています。さらに、沖縄と違って県をまたいで気軽に旅行ができるため、休日には車中泊で各地を巡ることも楽しみの一つです。

大学では、生物だけでなく物質・材料についても幅広く学んでいます。高専ではあまり触れる機会のなかった分野の授業に苦戦することもありましたが、異なる分野の知識を学ぶことで生物についてもより広い視点から考えられるようになりました。

現在は環境微生物工学研究室に在籍し、高専時代から取り組んできた微生物によるポリマー分解の研究を継続しています。高専で培った実験技術や研究の基礎は、大学での研究を進める土台になっています。一方で、自ら文献を読み、研究の方向性を考えながら試行錯誤する場面も増え、研究の奥深さと面白さを感じています。

環境が変わると大変なこともあります。その土地でしかできない経験や出会いがたくさんあります。そして高専で過ごした5年間は、今の学びや新しい環境での生活の大きな支えになっています。在校生の皆さんも、高専だからこそ得られる経験を大切に、自分らしい学生生活を楽しんでほしいなと思います！



ぬまた かいと
沼田 海斗

沖縄高専10期生 メディア情報工学科 卒業生



こんにちは。メディア情報工学科10期生の沼田海斗です。現在は東京で株式会社K.Platinumという会社を経営しています。

高専卒業後は大手企業でプロジェクトリーダーを経験し、その後ITコンサルタントとして腕を磨き、24歳で独立して会社を設立しました。現在は4期目を迎え、社員17名のうち8名が高専出身者です。ITコンサルティングや受託開発に加え、プログラミングスクール「ジゴガツ」の運営など、事業の幅を広げています。

実は経営のかたわら、キックボクサーとしても活動しています。「戦うエンジニア」として、精神も肉体も鍛え続ける毎日です。振り返れば、卒業間際にママチャリで日本一周をしたのが、僕の「まずやってみる」人生の原点だった気がします。

在校生の皆さんに伝えたいのは、高専で身につけた技術力は社会で想像以上に武器になるということ、そしてキャリアは一本のレールの上にはないということです。エンジニア、コンサルタント、経営者、格闘家。全部やりたいなら、全部やればいい。高専の5年間で得た「自分で手を動かして形にする力」があれば、どんな道でも切り拓けます。思い切り学び、思い切り遊んで、自分だけの道を歩んでください。応援しています。

後学期行事予定

高専祭

10月31日(土)～11月1日(日)

研修旅行

(本科3年)

12月1日(火)～12月4日(金)

冬季休講

12月26日(土)～1月4日(月)

終業式

2月16日(火)

(問合せ先)

沖縄工業高等専門学校 総務課専門職員(広報担当)
TEL : 0980-55-4017 Mail : skoho@okinawa-ct.ac.jp